

炉辺医話

近代医学か、現代医学か

板橋中央総合病院血液浄化療法センター

阿岸鉄三

こだわる

われわれは、現在適用されている医学を、
ときに近代医学といい、ときに現代医学と呼
びます。ちょっと気をつけてみると、意外に
無節操に、乱脈に使われていて、意識的な使
い分けがないようです。そんなのどっちでも
いいと思う人もいるでしょう。しかし、医学
を科学と考えたとき、使用する用語は、的確
でなければならぬと考えます。少しこだわ
って、厳密に考えてみましょう。その前に、
少し寄り道して、“こだわる”という言葉にこ
だわってみます。現代は、こだわりの時代で
あると思います。なににでも、こだわり過ぎ
ます。以前には、こだわるのは、あまり良い
ことを意味する表現ではなかったように思い

ます。昔の日本では、こだわりのない人がいい人で、ものにこだわらないのがいいことだったのです。現代日本人の大まかな特性として、こだわり過ぎることがあると思います。例えば、こだわりの手作り料理。足で作らないものは、皆、手作りなのかと皮肉も云いたくなるような、こだわりという言葉に対するこだわり。実態を表していない、言葉だけのこだわり。日本人は、もうこだわることは、少し止めてもっと、気楽に、あっさり、ものごとを引きずらずにさっぱりする方が、もっとお互いに暮らしやすく、住みやすくなると思うのです。

歴史でいう近代・現代

本題に戻って、現在適用されている医学に相応しい表現は、現代医学とすべきであると考えます。より正確にいうと、近代科学に基礎をおく現代医学というべきです。広辞苑(岩波書店、1991年)によると、近代は、一般に

は、封建制社会の後をうけた資本主義社会をいう、日本史では、明治維新から太平洋戦争終結までをいうのが通説である、とあります。一般というのは、世界史的にいえば、ということと理解します。ええ、そんな古いことをいってるのという感じです。一方、現代は、世界史では、19世紀末の帝国主義成立期、第一次世界大戦終結後、第二次大戦後など、さまざまな区分が行われている、日本史では、太平洋戦争の敗北後、とあります。念のためと開いた有名辞書のレベルでも、近代・現代は、かなり混乱しているのが分かります。それじゃ、われわれレベルでは、混乱するのが当たり前ともいえまじょうか。でもやっぱり、歴史でいう近代は、古すぎます。実は、辞書をめくっているうちに気がついたのですが、現代医学という表現も適切ではないのではないかという気がしてきました。現代を、仮に世界史的にも、日本史的にも第二次世界大戦後とすると、大戦直後の50年前と、西暦2001

年の医学・医療はまったく異なったものになっています。現代医学・医療といっても、実質は異なっているものを指していることが起きることがある訳です。より適切には、当代(contemporary)でしょうか。しかし、この言葉は、ここで問題にしている意味では、あまり使われていません。言葉は考えて使おうとすると、結構、難しいものです。それでも、現代・当代医学・医療が、近代科学に基礎をおいていることは確かでしょう。

科学技術

20世紀は、科学技術の時代であったという表現があります。これも、かなりいい加減な表現です。20世紀以前には、科学技術と呼ばれるものはなかったのでしょうか。科学とは、自然(界)におきる事象の理(ことわり)の説明、あるいは、それにもとずいたものの考え方、および、考え方の枠組み(パラダイム)です。科学技術とは、科学を応用した技術と

ということです。20世紀以前には、現在われわれが、科学技術と呼ぶような技術はなかったのは確かです。しかし、人間の歴史のなかで、その時代の人間の生活に必要な、相応する技術は、常に存在したのも確かです。例えば、火を燃やすことについて、どうやって燃料を手に入れるのか、どうすればよく燃えるのか、燃え続けるのかは、当然、知っていたでしょう。食物用植物を栽培するにしても、どこへ、いつの季節に行けば食物を手に入れることができるかなどの先行する知識・技術を応用したのでしょう。これらは、今日から振り返ってみると、原始的であるとしても、その前の時代の科学技術を応用したその時代の生活に相応して必要で、そして価値のある科学技術と呼ぶべきでしょう。

そうでないのなら文化人類学的にみた 20世紀の科学技術の意義は認められないことになります。20世紀の科学技術は、21世紀の科学技術の土台になりながら含み込まれ、数世

紀後には表面に現れなくなることは、歴史的必然です。古代・中世・近世・近代・現代・当代と、科学技術は連綿として引き継がれ、続いているのです。

21 世紀の科学

では、21 世紀的科学の向かうべき方向はどのようなのでしょうか。どちらに向かうべきなのでしょうか。私論を結論的に述べますと、いろいろなパラダイムの統合によるパラダイムの拡大 (paradigm expansion) と考えます。パラダイムシフトといういい方がありますが、それは、ものの考え方の軸を転換させることをいっています。パラダイムの拡大は、考え方の枠組み・容れ物を大きくすることをいっています。当初は、西洋・東洋的考えの統合から、現在、科学とって表現しているものと、それが取り扱ってこなかった、むしろ、理解ができないからと疎外してきた精神的・心的・靈的問題をもとに理解するパラ

ダイムの統合的創造です。やや、難しくなり
ましたが、統合 (Integration) は、結合でも、
融合でもありません。Integration は、完全体
にすることを意味しています。